

氏名： 熊谷 圭知
所属： 人間文化創成科学研究科文化科学系
職名： 教授
学位： 修士（社会学）
専門分野： 社会文化地理学、オセアニア地域研究
E-mail： kumagai.keichi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード / Keywords

地域／開発／ジェンダー／グローバル／ローカル／パプアニューギニア
region / development / gender / global/local / Papua New Guinea

◆主要業績

総数（2）件

- ・熊谷圭知「変わりゆく人々の暮らし国家—都市と村の間」（田中辰夫編『パプアニューギニア—日本人が見た南太平洋の宝島』花伝社、pp.14-44.2010年3月
- ・熊谷圭知「ローカル・センシティブなジェンダーと開発と男性」お茶の水地理 50、pp.27-47
- ・「グローバル化時代の世界地誌を考える」（日本地理学会地理教育公開講座講演）2009年3月29日、帝京大学

◆研究内容 / Research Pursuits

1. パプアニューギニアの開発と地域変化と住民：2009年8～9月に3週間、セピック川流域のクラインビット村および首都ポートモレスビーにおいてフィールドワークを行った。遠隔地の村人の開発への希求、都市美化政策が露天商などのインフォーマルセクターに与える影響などを確認した。

2. 地域研究・地誌記述と他者理解：グローバル化時代の地域研究・地誌記述：「他者化」に陥らない「南」の地域理解とその表象・記述のあり方について検討を行った。

3. インターローカルな地域おこしの可能性と課題—日中の比較検討を軸に：同名の学内共同研究費を得て、地理環境学コース教員・院生と共同研究を行った。

1. Research on development, regional change and peoples in Papua New Guinea
2. Reflection on representation of area studies and regional geography highlighting their way of understanding of the Other.

◆教育内容 / Educational Pursuits

1. 学部授業：「オセアニア地域文化論Ⅰ・Ⅱ」「フィールドワーク方法論」「人間と空間」「国際協力実習Ⅰ・Ⅱ」ほか
2. 大学院授業：「開発地域文化論」「環境文化論演習」
3. 論文主指導：卒業論文：4名、修士論文：1名
国際協力実習Ⅱでは、2010年3月6日～13日まで、荒木准教授とともに学生12名を引率し、北部タイを訪問した。現在学生たちはその成果をまとめた報告書を製作中である。

◆研究計画

1. パプアニューギニア地域研究：セピック川支流のクラインビット村の調査については、昨年、文化地理学・生態人類学の野中健一教授と共同調査を行った。2010年度から野中教授を代表者とする基盤研究(A)において、環境—社会／文化—人間関係を、野生動植物を通じた微量元素の摂取、生物循環といった視点を軸に、文理融合の研究グループで共同調査する計画が進行中である。
2. ローカル・センシティブなジェンダーと開発研究：2010年7月に開催される国際地理学会の「ジェンダーと地理学」委員会において、日本の男性性の変容とナショナリズムについて報告を行う予定である。

◆メッセージ

2009年は、私がパプアニューギニアと関わり始めてちょうど30年目になります。クラインビット村には10回目の訪問となりました。私は、これまでの研究をまとめたスライドを紙芝居風に仕立てて持参し、現地の言葉（ピジン語）で、村人や子どもたちの前で報告して、ささやかな知的還元の実践を試みました。地域研究は、ともすると構造的強者の地位にある「北」（先進国）の研究者が「南」（途上国）の人々のデータを奪い自分たちのものとして表象するという営為に陥りがちです。経済的格差と知的格差の双方を改善し、双方向的な地域理解を作り出していくにはどのようなことが必要なのか、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。